TOYOTOMI
トヨストーブ
トヨレンジ

取扱説明書

型式 K-3E（ケーイー）

石油こんろ
日本工業規格品

このたびは本品をお買いあげいただきまことにありがとうございます。

●ご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく使用してください。
この「取扱説明書」は、保証書と共に大切に保管しておいてください。

●取扱説明書を紛失された場合は、お買上げの販売店にご相談ください。

もくじ

株式会社トヨトミ

3377009030

安全のために必ずお守りください

●お使いになる人や他の人への危害と財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しく使用するために、必ずお守りいただくことを説明しています。
●ここに示した表示は、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

表示	内容
⚠危険(DANGER)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠警告(WARNING)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意(CAUTION)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●お守りいただく内容を、次の絵表示で区分しています。

絵表示	内容
	この絵表示は、「禁止」されている内容です。
	この絵表示は、「注意」していただく内容です。
	この絵表示は、必ずしていただく「指示」内容です。

●説明文中の**「お願い」**事項は、本機を誤りなく正しくお使いいただくための内容が記載されています。

⚠危険(DANGER)

★ガソリン使用禁止

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
少量の混入でも、火災の原因になります。

ガソリン禁止

⚠警告(WARNING)

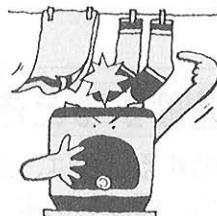
★換気必要

- 換気せずに使用しつづけないでください。
  酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。
- 使用中は必ず1時間に1～2回(1～2分)換気して、新鮮な空気を補給してください。
  (窓の凍結、地下室など)換気が充分におこなえない場所では、使用しないでください。

換気

⚠警告(WARNING)

★スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、こんろの上に近づけたり、周囲に放置しないでください。
熱で缶の圧力が上がり、爆発して危険です。

★カーテン、可燃物近接厳禁

カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しないでください。
こんろの周囲に可燃物を置かないでください。
こんろの熱気で着火して、火災の原因になります。

★衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
乾燥するとこんろの熱気でゆれて落下して、火災の原因になります。

★寝るとき消火

寝るときや外出するときは、必ず火が消えていることを確認してください。
予想しない事故が発生するおそれがあります。

★給油時消火

給油は、必ず消火し、ストーブの温度が充分に下がってからおこなってください。
火災の原因になります。

★空だき厳禁

なべ、やかんやフライパンなどは、空だきしないでください。
空だきすると内部に熱がこもって、火災や故障の原因になります。

★可燃性ガス使用厳禁

こんろを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの(ガソリン、ベンジン、シンナー)や、スプレーを使用しないでください。
火災や故障の原因になります。

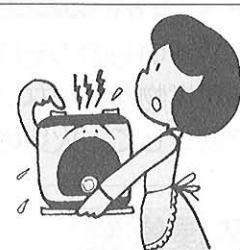
★調理中はこんろから離れない

- 煮物等調理したまま、こんろから離れないでください。
  食材がこげたり燃えたりして火災の原因になります。
- 電話や来客などでこんろから離れる場合は、いったん火を消してください。

⚠注意（CAUTION）

★居室内給油禁止

給油は、必ず火の気のないところでおこなってください。
火災のおそれがあります。

★変質灯油禁止

変質灯油（持ち越した灯油など）、不純灯油（灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油など）を使用しないでください。
異常燃焼や故障（しんが下がらない、点火できない、火が消えない）の原因になります。

★燃焼中移動禁止

火のついたまま持ち運ばないでください。
やけどのおそれがあります。また、転倒すると火災になるおそれがあります。

★移動・運搬するときの注意

- こんろを移動する場合は、必ず消火し、こんろの温度が充分下がってから、傾けないように静かに移動してください。
- 修理・引越しなどで、こんろを運搬される場合は、油タンクの灯油を必ず抜いてください。運搬の途中に灯油がこぼれて、周囲を汚すおそれがあります。

★異常時使用禁止

におい、すすの発生、炎の色など異常燃焼を起こしたときは、使用しないでください。
緊急の場合でもあわてずに、しんを下げて消火してください。

★大なべ禁止

大きななべ、鉄板、（指定以外の補助具）をのせないでください。
内部に熱がこもったり、炎が横にのびたりして異常燃焼のおそれがあります。
不安定なやかん、なべ、フライパンなどは使用しないでください。
転倒するおそれがあります。

★高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部、こんろの上面に手などをふれないよう注意してください。
やかん、なべ、フライパンなどの取っ手が加熱されていることがありますので、やけどに注意してください。

★高温部に注意

燃焼中や消火直後は、燃焼筒の上部から高温の熱気が出ています。手や顔などを近づけないでください。
やけどのおそれがあります。

⚠注 意(CAUTION)

★煮こぼれ注意

煮炊きをおこなう場合は、煮こぼれさせないよう火力の調節をおこなってください。煮こぼれ汁が、しんや感震部にかかりますと、火が着きにくくなったり、しんが下がらなくなったり、異常燃焼や故障の原因になります。

★風のあたる場所で使用禁止

- 屋外や部屋の出入口など、風のあたる場所では使用しないでください。異常燃焼を起こすおそれがあります。
- 風があたらないように、つい立てを立てる場合は、内部に熱がこもらないように、つい立てをこんろから約15cm以上離してください。

★内部に熱がこもる使いかた禁止

上面板の上に、こんろより大きい鍋や鉄板を直接のせて、上面をふさぐような使いかたをしないでください。
内部に熱がこもり、異常燃焼を起こすおそれがあります。

★ほこりの除去

置台、製品内部のほこりをときどき除去してください。
油タンクの下から燃焼用空気を吸い込みますので、紙、ビニールなどを入れないように注意してください。
ごみ、ほこりなどがつまると、異常燃焼や火災の原因になります。

指示

★対震自動消火装置の作動確認

使用開始時と、使用中は1箇月に1回以上、および誤って煮こぼれをした場合は、対震自動消火装置を作動させて、確実に消火することを確かめてください。
確実に消火しないときは使用しないで、すぐに修理してください。

★純正部品の使用

しんなどの部品は、必ずトヨトミ純正部品(指定された部品)を使用してください。
純正部品を使用しないと、こんろの性能を損なうばかりでなく、故障や予想しない事故が発生するおそれがあります。

★分解修理・改造の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。
こんろは、絶対に改造して使用しないでください。
不完全な修理や改造は危険です。

★お子様やお年寄りのご使用に注意

お子様やお年寄り、体の不自由な方がお使いになる場合は、こんろの取扱い、やけど、部屋の換気などについて、周囲の人が充分に注意してください。

★保管時にしていただくこと

- 長期間使用しないとき又は保管するときは、必ず灯油を抜いてください。
  傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。
  火災のおそれがあります。
- しんの手入れ(から焼クリーニング)は、風があたる場所ではおこなわないでください。
  火災のおそれがあります。

★廃棄するとき

こんろを廃棄処分するときは、必ず油タンク内の灯油を抜き取ってください。
(24ページ参照)
灯油が入ったまま廃棄するとリサイクルの際、思わぬ事故が発生するおそれがあります。

⚠注 意(CAUTION)

★次の場所では使用しない

火災や予想できない事故や故障の原因になります。

水平でない場所、不安定な場所

- 傾斜した場所や振動の激しいところでは使用しないでください。
  対震自動消火装置が誤作動することがあります。
- しっかりしたじょうぶな場所で使用してください。
- 移動車両の中や、不安定な台の上などで使用しないでください。転落したり、火災になるおそれがあります。

ほこりや湿気の多い場所

- 粉類や繊維を取扱う場所や温室・養鶏場など、塵やほこりの多い場所では使用しないでください。
  燃焼用空気(酸素)を取入れる箇所が目づまり状態になり、異常燃焼を起こし事故になるおそれがあります。

直射日光のあたる場所、温度の高い場所

- 異常燃焼の原因になります。

温室・飼育室など人のいない場所

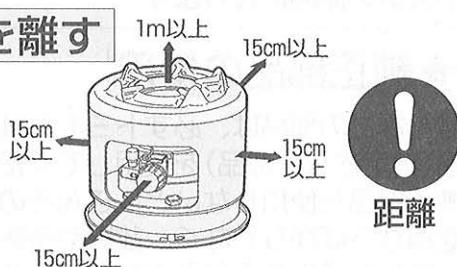
- 使用環境の変化で、予測しない事故が発生するおそれがあります。

風のあたる場所、部屋の出入口(屋外)

- 風のあたる場所では使用しないでください。炎が出て危険です。掃除機の排気にも注意してください。
- 部屋の出入口など人の通る場所、人がぶつかったりつまずく場所で使用すると、転倒して事故や火災が起きるおそれがあり危険です。

不安定な物をのせた棚などの下

- 落下物により火災が起きるおそれがあります。

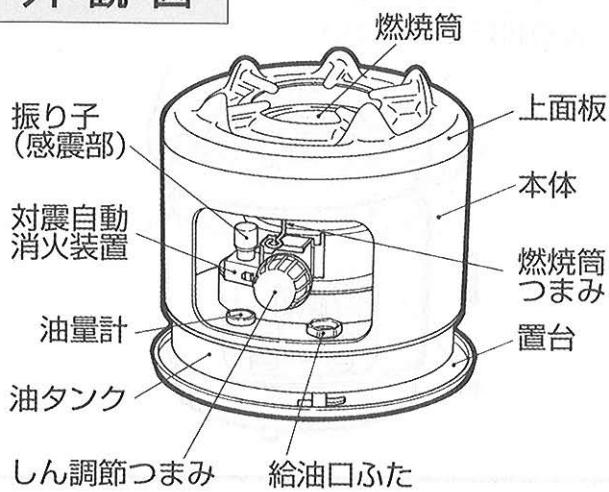
可燃性ガスの発生する場所、またはたまる場所

- 爆発や火災の原因になります。

船舶や車両、特殊な場所

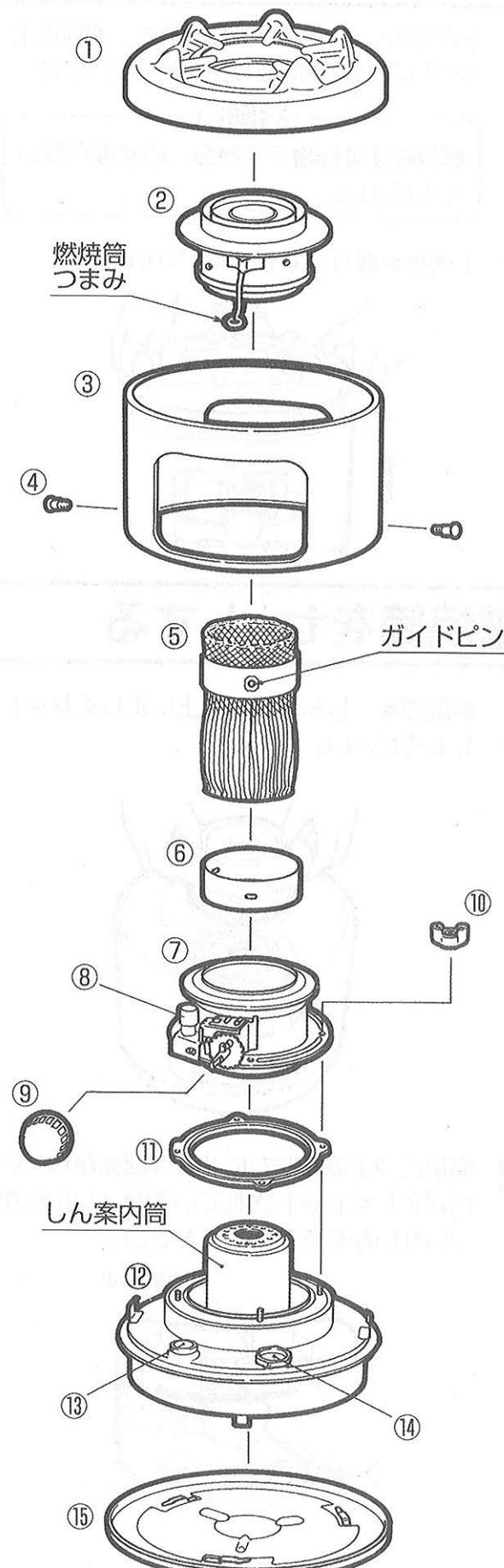
- 船舶や車両に搭載したり、暖炉や押入れに入れて使用したり、温室や業務用の使用など、特殊な場所での使用はおこなわないでください。
  火災の原因になります。

★可燃物(木壁、合板、ふすまなど)との距離を離す

- こんろから可燃物の距離は右図の指定以上の距離を保つようにしてください。
- カーテンなどがこんろにふれないようにしてください。
- 上方の棚などから落下物がないようにしてください。

お 願 い(NOTICE)

★灯油の廃棄

- 灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

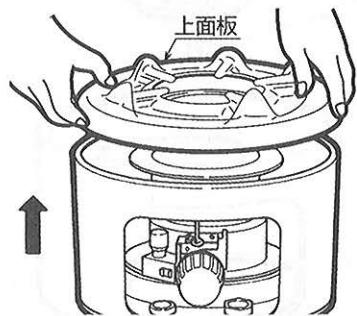
使用する場所

- このこんろは、ガスこんろ台などの安定した水平な台の上などに置いてください。
  人がぶつかったりしない場所に置いてください。
- **とくに、幼いお子様のいるご家庭では、湯わかしなどでやけどをしないように注意してください。**

各部のなまえ

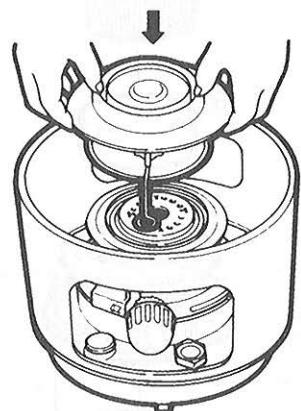
外観図

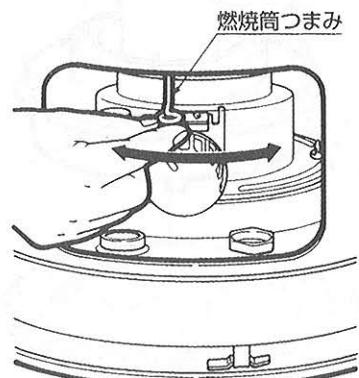
No.	部品名
1	上面板
2	燃焼筒
3	本　体
4	体止めねじ
5	トヨ耐熱しん　第24種
6	しんホルダー
7	しん調節器
8	対震自動消火装置
9	しん調節つまみ
10	止めねじ
11	パッキン
12	油タンク
13	油量計
14	給油口ふた
15	置　台

構造図

①
②
燃焼筒
つまみ
③
④
⑤
ガイドピン
⑥
⑩
⑦
⑧
⑨
⑪
しん案内筒
⑫
⑬
⑭
⑮

こんろを取り出す

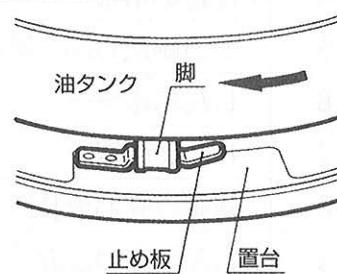
1 包装箱から、梱包材を取り除き、製品に傷をつけないように取り出してください。

お願い

梱包材は可燃物ですから、必ず取り除いてください。

2 上面板を取りはずしてください。

燃焼筒をセットする

1 燃焼筒を、しん調節器の上に正しくセットしてください。

2 燃焼筒つまみを左右に２～３回動かし、燃焼筒が正しくセットされているか、しんをかんでいないかを確かめてください。

3 上面板を本体の上に水平となるよう確実に取り付けてください。

置台に固定する

置台と油タンクを固定してください。油タンク底面の脚を置台の止め板（３箇所）に回して引っかけ、固定してください。

お願い

必ず置台を取り付けて使用してください。

お願い

製品の輸送中に生じた燃焼筒の変形、ねじのゆるみや、はずれなどがないか調べてください。

燃　料

◉燃料は灯油(JIS1号灯油)を必ず使用してください。
◉変質灯油、不純灯油は、絶対に使用しないでください。

⚠危険

★ガソリン使用禁止

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
少量の混入でも、火災の原因になります。

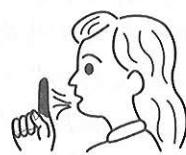
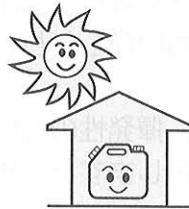
ガソリン禁止

- 誤ってガソリンなどの燃料を使用したことがわかったときはあわてずに、対震自動消火装置の振り子(感震部)を押して消火してください。
- 変質灯油(持ち越した灯油など)、不純灯油（灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油など）は、絶対に使用しないでください。
  異常燃焼や故障の原因になります。
- 市販されている助燃剤(添加剤)は使用しないでください。
  異常燃焼を起こすおそれがあります。

灯油とガソリンの見分けかたのポイント

指先に使用燃料をつけて息を吹きかけます
(火の気のない所でおこなってください)

○ 灯　油	× ガソリン
濡れたままです。	すぐに乾いてしまいます。

◉灯油の保管のしかた

- 灯油は必ず火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。
- 灯油の容器は専用のきれいな容器を使用してください。また灯油容器は必ずJIS認定品で色つきの灯油専用容器を使用してください。
- 灯油容器内の灯油が少ないと温度変化により結露して水がたまることがあります。
- ドラム缶などで、長期間大量に保管しないでください。
- お子様の手のとどかない所に保管してください。

良い保管	悪い保管
直射日光、雨水が当たらず、火気のない冷暗所へ保管	直射日光、雨水の当たるベランダなど、室外の保管

禁止

変質灯油とは

- 古い灯油。(ひと夏持ち越した灯油)
- 長期間、日光の当たる場所や、温度の高い場所に保管した灯油。
- 容器のふたが開けてあったり、乳白色の容器で保管した灯油は変質しやすい。
- 変質のひどいものは黄色味をおびたり、すっぱいにおいがします。
- 変質を防ぐため灯油は翌シーズンに持ち越さないようにしてください。

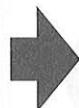
使用禁止

不純灯油とは

- 灯油以外の油（ガソリン、シンナー、天ぷら油、機械油、重油など）がほんの少しでも混入した灯油。
- 水やごみが混入した灯油。

使用禁止

灯油以外の油、水、ごみを入れないで

……燃　料

変質灯油・不純灯油の見分けかた

コップに水を入れ、次に灯油を入れて背後に白い紙をあてます。

水と同じ無色透明なら正常。

少しでも色がついていたら使用しない。

- 変質灯油や不純灯油の見分けかたはたいへん難しいので、メーカーのはっきりしない灯油は使用しないでください。

変質灯油や不純灯油を使用すると

- 変質灯油や不純灯油を使用しますと、しんに多量のタールがたまり、しんの先端が固くなったり、点火しにくくなったり、しんが上下しにくくなったり、炎が大きくならなくなったり、激しいにおいがしたりします。
  また、消火時にしんが下がらず火が消えなくなります。
- 水の混入した灯油を使用しますと、しんが上下しにくくなったり、油タンクに灯油が残っていても炎が小さくなり、異常燃焼を起こして激しいにおいがしたり、火が消えたりします。
- ガソリン、シンナーなど、揮発性の高いものが混入した灯油を使用しますと、火災の原因になります。

万一変質灯油や不純灯油を使ったときの処置のしかた

1 油タンク内の悪い灯油を抜き取り、良質の灯油で内部を2～3回洗浄してから良質の灯油に入れ替えてください。
（悪い灯油が残っていると再発します。）

2 しんの手入れ（24ページ参照）を見て、しんの先端の固くなっている部分を、ラジオペンチなどで軽くつぶしてから、から焼きクリーニングをおこなってください。
（水が多量に混入した場合は、しんを取り替えてください。）

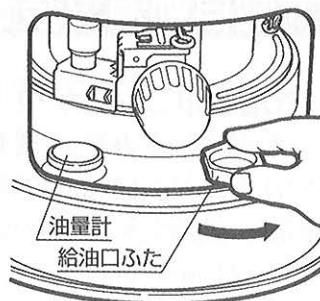
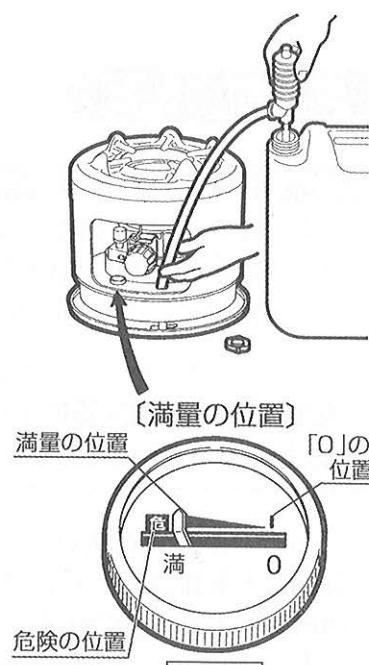
3 しんの手入れをおこなっても効果のないときや、水が多量に混入している場合は、しんを取り替えてください。
しんの取替えは、販売店までお問い合わせください。

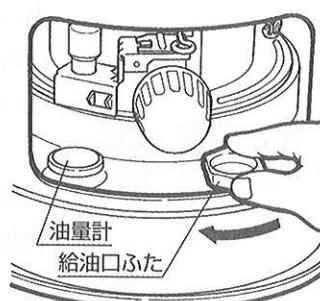
お願い

変質灯油や不純灯油が原因でアフターサービスを依頼されたときは、保証期間中でも有料修理となります。

給油のしかた

- こんろを使用するときは、ときどき油量計を見て、灯油があるかどうか確認し、油量計の針が「0」を示す前に給油してください。

⚠警 告	給油は、必ず消火して、こんろの温度が充分に下がってからおこなってください。 火災の原因になります。	 消火

⚠注 意	給油は、必ず火の気のないところでおこなってください。 火災のおそれがあります。	 禁止

1 給油口ふたを開ける。

給油口ふたを、左(↺)に回して取り外してください。

2 油量計を見ながら給油する。

- 市販の給油ポンプの先端を止まるまで軽く差し込んで、油量計を見ながら給油してください。（ホースが抜けないように手で固定しながら給油してください。）
- 灯油は、油量計の「満」の位置まで給油してください。「危」の位置まで入れ過ぎますとあふれ出ることがありますので充分に注意してください。床を汚したり、臭気や火災の原因になります。
- オート給油ポンプを固定する場合は、ホースを油タンクにクリップで固定できないので、必ず、ホースが給油口から抜けないように手で固定しながら使用してください。
- オート給油ポンプの「満量位置」の調節は、ポンプの取扱説明書に従っておこなってください。

〔満量の位置〕

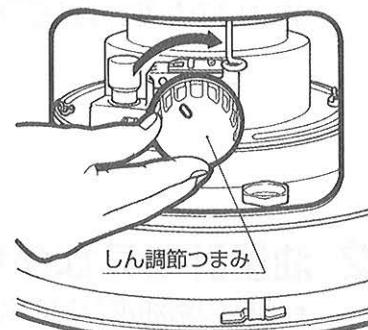
3 給油口ふたをしっかりしめる。

- 給油口ふたを回して、右(↻)に回してしっかりしめてください。
- 灯油容器のふたも、しっかり締めておいてください。

4 こぼれた灯油はよくふき取る。

こぼれた灯油は、必ずきれいにふき取ってください。危険ですし、燃焼中に臭気を発生する原因にもなります。

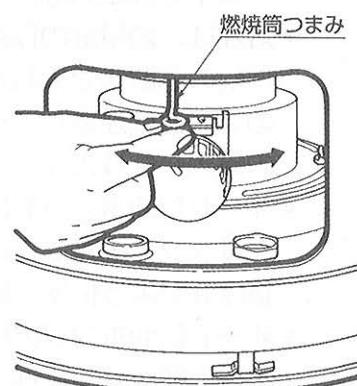
点火前の準備と確認

点火前の確認

水平な場所で使用してください。

- こんろは、必ず水平な安定した場所で使用してください。
  こんろが、傾いていないか、不安定な状態になっていないか、必ず確かめてください。
- こんろを傾いた状態で使用しますと、対震自動消火装置が誤作動することがあります。
  また、転倒しやすくなったり、異常燃焼や途中消火の原因になります。

対震自動消火装置のセット （再セットする場合も同じ手順です）

しん調節つまみを「燃焼」の方向へ回す。

- しん調節つまみを、「燃焼」の方向（↻）にゆっくり止まるまで回すと、対震自動消火装置が自動的にセットされます。
- 対震自動消火装置をセットするときには、「カチカチ」と音がして、少し重くなります。

点火前の確認

燃焼筒のセットを確認する。

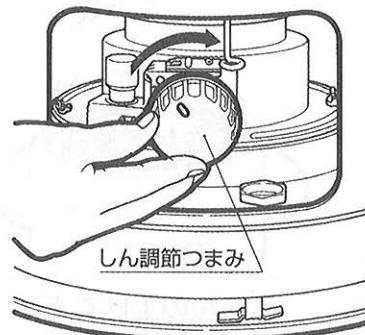
点火操作をする前には、必ず、燃焼筒が正しくしん調節器にセットされているか、燃焼筒つまみを左右に2～3回動かし、スムーズに動くことを確かめてください。

お願い

燃焼筒が、しん調節器に正しくセットされていなかったり、しんの上にのっていると、すすがでて異常燃焼を起こし危険です。

- こんろの上方や周囲や置台の上に布や紙、マッチなど可燃物がないことを確認してください。
  可燃物があると火災のおそれがあります。

⚠警 告		
	カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しないでください。こんろの周囲に可燃物を置かないでください。こんろの熱気で着火して、火災の原因になります。	禁止
	衣類などの乾燥には使用しないでください。乾燥するとこんろの熱気でゆれて落下して、火災の原因になります。	禁止

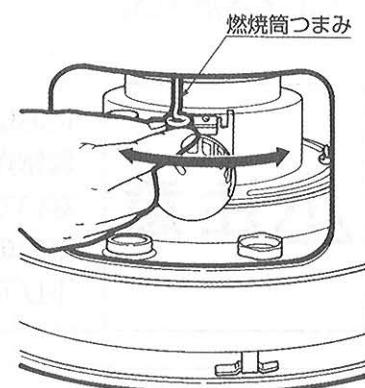
点火のしかた

お願い

使い始めや、しんの交換後、しんの手入れ(から焼きクリーニング)をしたときは、給油後約 15分 以上待って、しんに充分な灯油が吸い上げられてから点火してください。充分に吸い上げられていない状態で点火しますとしんを傷めます。

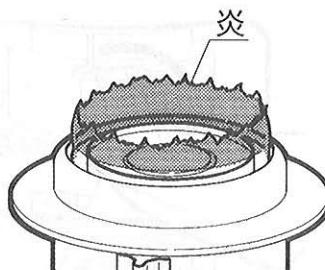
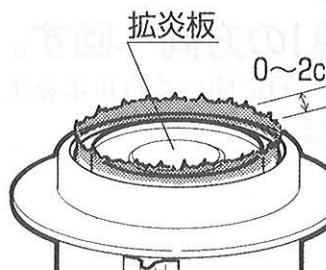
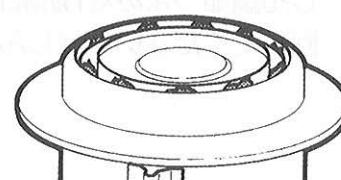
- 初めてのお使いになるときは、点火後、機器についているほこりや油が焼けるにおいがしますが、しばらくお使いいただければ、においはなくなります。

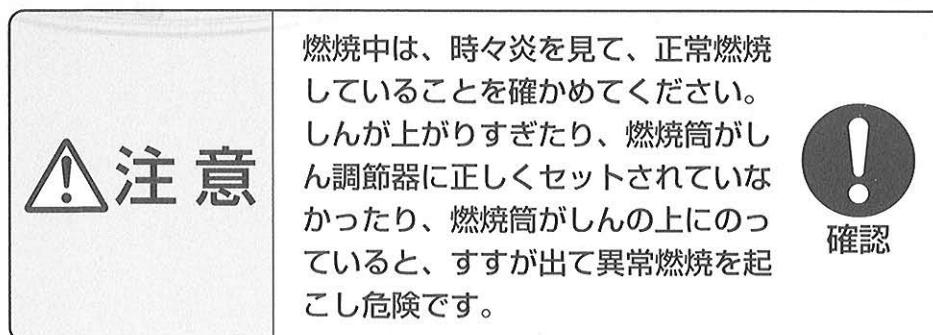
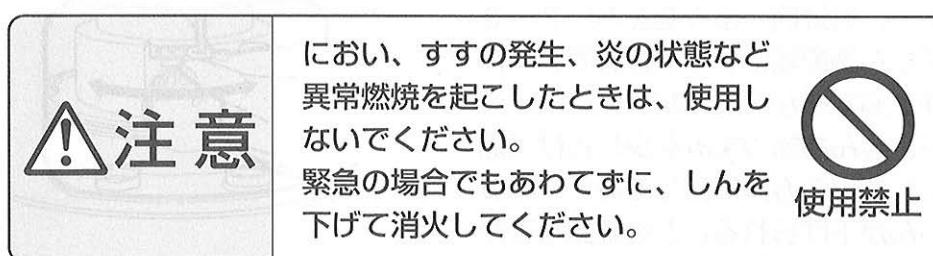
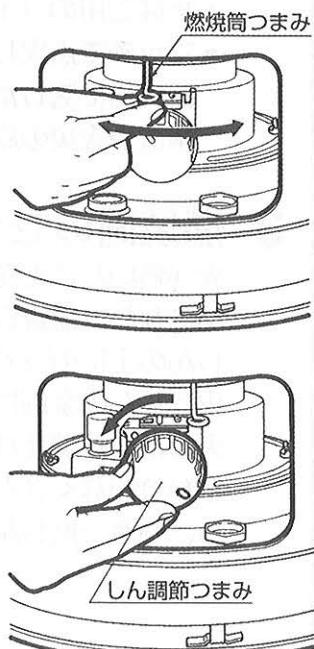
1 しん調節つまみを「燃焼」の方向へ回す。

しん調節つまみを「**燃焼**」の方向(↻)にゆっくり止まるまで回してください。(しんが上がります。)

2 マッチや市販の点火用ライターで点火する。

- 燃焼筒つまみを持ち上げ、マッチや市販の点火用ライターでしんに火を着けてください。
- たばこ用のライターで点火しないでください。
- **マッチで点火した場合は、マッチの燃えかすをしん付近や器具内に落したり、置台の上に置かないでください。事故や火災の原因になります。**

3 燃焼筒のセットを確認する。

火が着いたことを確認したら、燃焼筒つまみを左右に2～3回動かし、燃焼筒が正しくしん調節器にセットされているか、しんの上にのっていないかを必ず確かめてください。
火がしんの全周に廻ったら、しん調節つまみを少しだけ(点火した火が消えない程度に)消火の方向に回してみて、引っかかりがなくスムーズにしんが下げられることを確認してから、もう一度しんを上げて使用してください。

炎の調節のしかた

炎の調節

- **炎の調節は、**しん調節つまみを回して調節し、 炎の状態 の項を参考にして、必ず正常燃焼の状態で使用してください。

炎の状態

異　常	正　常	異　常
炎	拡炎板 0〜2cm	
しんの上げすぎ (拡炎板から黄火が大きく出る状態)	**正常燃焼**	**しんの下げすぎ** (拡炎板から炎が出ていない)
すすや一酸化炭素が多く発生する	拡炎板から炎が0〜2cm出る状態	においや一酸化炭素が多く発生する

■炎の大きさは上記の図のように、正常燃焼の状態でご使用ください。

- 点火2〜3分後、炎が立上がってきたとき、燃焼筒つまみを左右に軽く2〜3回動かしますと、炎が早く安定します。
- 拡炎板から黄火が大きく出る状態や、拡炎板から炎が出ていない状態のときは、しん調節つまみを回して炎の大きさを正常燃焼の状態に調節してください。

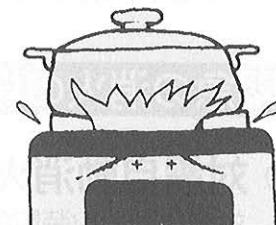
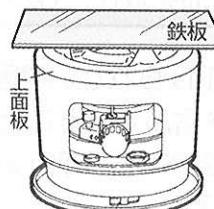
におい、すすの発生、炎の状態など異常燃焼を起こしたときは、使用しないでください。
緊急の場合でもあわてずに、しんを下げて消火してください。

⚠注 意

燃焼中は、時々炎を見て、正常燃焼していることを確かめてください。
しんが上がりすぎたり、燃焼筒がしん調節器に正しくセットされていなかったり、燃焼筒がしんの上にのっていると、すすが出て異常燃焼を起こし危険です。

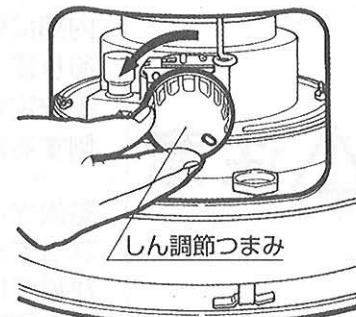
調理時の注意

⚠警 告	なべ、やかんやフライパンなどは、空だきしないでください。 空だきすると内部に熱がこもって、火災や故障の原因になります。	 禁止
⚠注 意	大きななべ、鉄板、(指定以外の補助具)をのせないでください。 内部に熱がこもったり、炎が横にのびたりして異常燃焼のおそれがあります。 不安定なやかん､なべ､フライパンなどは使用しないでください。転倒するおそれがあります。	 禁止
	煮炊きをおこなう場合は、煮こぼれさせないよう火力の調節をおこなってください。煮こぼれ汁が、しんや感震部にかかりますと、火が着きにくくなったり、しんが下がらなくなったり、異常燃焼や故障の原因になります。	 注意

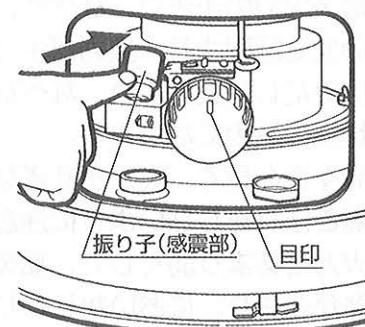
- **なべや、やかんをのせたときには、必ず火力の調節をしてください。**
  なべ等をかけて1～2分たったら、黄火が出ないようにしん調節つまみを「**消火**」の方向(⟲)に回して、しんを下げて調節してください。
  最大火力のままで、なべや、やかんをのせますと、炎の出る所がなべ等の底で制限され、火力が余って黄火やすすの出ることがあります。
- はみだした炎により、なべなどの取っ手が過熱され、やけどや取っ手の焼損の原因になります。
- 時々炎を見て、炎が出すぎないように調節してください。
- **煮こぼれをしないように注意してください。**
- **火力をあまり弱くして、拡炎板から炎の先端が出ていない状態のとろ火で燃焼しますと、こんろ内に熱がこもり、においがしたり、こんろのいたみを早めたりします。**
- なべの種類によっては、傾いたり、すべりやすいものがあります。不安定な状態では使用しないでください。中華なべなどの底の丸いなべは、必ずなべの取っ手を持ちながら使用してください。
- しんを上げて火力を強くする場合には、炎が一時的にのびて、なべややかんの底にすすがつくことがありますので、ゆっくりとしんを上げて調節してください。

	屋外や部屋の出入口など、風のあたる場所では使用しないでください。 異常燃焼を起こすおそれがあります。 風があたらないように、つい立てを立てる場合は、内部に熱がこもらないように、つい立てをこんろから約15cm以上離してください。		 使用禁止
	上面板の上に、こんろより大きい鍋や鉄板を直接のせて、上面をふさぐような使いかたをしないでください。 内部に熱がこもり、異常燃焼を起こすおそれがあります。		 禁止

消火のしかた

⚠警告

寝るときや外出するときは、必ず火が消えていることを確認してください。
予想しない事故が発生するおそれがあります。

通常の消火の場合

1 しん調節つまみを「消火」の方向へ回す。

しん調節つまみを、**「消火」**の方向()にゆっくり止まるまで回し、消火してください。しん調節つまみを速く回すと、においやすすが出やすくなります。

2 消火を確認する。

- においを少なくするため、4分程燃焼(炎が一部残る)して消火します。
- 火が消えたことを、必ず確認してください

緊急の消火の場合

◉ 対震自動消火装置の振り子を押し倒す。

対震自動消火装置の振り子(感震部)を、押し倒してください。しん調節つまみの目印が**「真上」**にあり、火が消えたことを必ず確認してください。

- このとき急速に消火させるため、「ボッ」と言う消火音と共に炎が伸びたり、すすやにおいが発生することがあります。
- **対震自動消火装置の振り子(感震部)を押し倒しても、しんが下がらず消火できない場合は、しん調節つまみを回して、しんを下げてください。**
  それでもしんが下がらない場合は、火が消えるまで燃やしきってください。

- 時間に余裕がない場合は、燃焼筒の上にコップ一杯(200mℓ程度)の水をかけて消火してください。

水をかけると水蒸気が出たりします。あわててヤケドをしないように、手袋をはめるか、手にタオルを巻くなどしてからおこなってください。また、あとで油タンク内の水の入った灯油を抜き、しん交換が必要です。

- **しんを下げられない原因は、しんにタールがたまっていたり、水を含んでいることがありますので、**[しんの手入れをする](24ページ参照)**をおこなうか、新しいしんに交換してください。**

消火後再点火するときの注意

消火後、約３分間は再点火しないでください。燃焼筒が冷えないうちにしんを上げると、生ガスが発生し、激しい臭気がでたり、点火しないことがあります。

対震自動消火装置

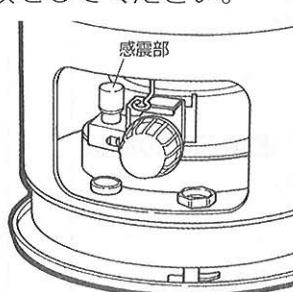
- **対震自動消火装置は、こんろ本体が地震(震度約５以上)や強い振動、衝撃を受けたとき、火災などの危険を防ぐために自動的に消火させる安全装置です。**
- **地震によって作動した場合は、周囲の可燃物がたおれていないか、機器の損傷はないか、油がこぼれていないかなど異常がないことを確認した後、再点火してください。**

対震自動消火装置の取扱い上の注意

- 通常の使用時には、しん調節つまみで消火してください。消火の際に対震自動消火装置を作動させると、臭気が発生します。
- 煮こぼれをしないように注意してください。しんに煮こぼれ汁が付着すると、しんが下がらなくなったり、対震自動消火装置が作動しても消火性能が著しく悪くなり、火災の原因になります。
- こんろを持ち運んだり、ずらしたり、掃除するときなどは、しん調節つまみで消火した後、対震自動消火装置の振り子(感震部)を押し倒して作動させ、しんを完全に下げてからおこなってください。
- こんろを長い間使用しないときは、対震自動消火装置の振り子(感震部)を押し倒して作動させ、しんを完全に下げた状態にしておいてください。セットしたまま放置しますと、対震自動消火装置の寿命に悪影響をあたえます。

点検・手入れのしかた

点検・手入れをおこなうときは

- こんろを消火し、本体温度が充分に下がってからおこなってください。
- 手をけがしないように、手袋をはめておこなってください。
- 対震自動消火装置の取りはずし、分解は絶対におこなわないでください。

使うたびに

点検箇所	点検内容	処置方法
こんろの周囲	●こんろの周囲に可燃物や障害物がありませんか。 [火災の原因になります]	●常に整理、掃除をし燃えやすいものをこんろの周囲に置かないでください。
油こぼれ 油たまり 油にじみ	●油タンク、置台の表面に油がこぼれたりたまったり、にじんでいませんか。 [火災の原因になります]	●こぼれたり、たまったり、にじんだ油はきれいにふき取ってください。
油漏れ	●油漏れはありませんか。 [火災の原因になります]	●油が漏れている場合はすぐに使用をやめ、お買い求めの販売店に修理依頼をしてください。

1箇月に1回以上

点検箇所	点検内容	処置方法
油タンク	●油タンクの中に、水やごみがたまっていませんか。 [不完全燃焼したり、火が消えてしまいます]	●給油口ふたをはずして、市販の給油ポンプなどで、油タンクの中の水やごみを吸い出してください。 (24ページ 保管 参照)
ほこり	●置台にほこりがたまっていませんか。油タンクの下の隙間に物が入り込んでいませんか。 [異常燃焼や火災の原因になります]	●置台を取りはずし、たまったほこり、ごみなどを掃除機で吸い取ったり、雑巾などでふき取ってください。
対震自動消火装置	●しん調節つまみを回してしんを上げてから、置台をゆすって、対震自動消火装置を作動させると、しんが下がり、しん調節つまみの目印が**「真上」**位置に戻りますか。 [確実に消火することを確認]	●しんが下がらない、しん調節つまみの目印が**「真上」**にない場合は、しん、感震部 の項の点検をしてください。 ●販売店に修理依頼してください。

2箇月に1回以上

点検箇所	点検内容	処置方法
燃焼筒	●燃焼筒の小さい穴に、燃えかすやすすが付着していませんか。 [異常燃焼の原因になります]	●ブラシなどを使って、燃えかすやすすを取り除き、きれいに掃除してください。
しん	●しんの先端にタールが付着して、固くなっていませんか。 ●しんに煮こぼれ汁が付着していませんか。 **しんにタールが付着していたり、煮こぼれ汁が付着していると、次のような不具合が発生します。** ●消火操作をしても、しんが下がらない。 ●しん上下の操作が重く、スムーズにできない。 ●火が着きにくい。 ●燃焼筒が赤熱しなかったり、燃焼中ににおいがする。	●タールが付着している場合は、24ページ しんの手入れをする に従って、しんの手入れをおこなってください。 **お願い** ●しんの手入れは、風があたる場所ではおこなわないでください。 ●しんの手入れ中はにおいがしますので、部屋の換気をしてください。 ●しんの手入れをおこなっても効果のない場合は、新しいしんに交換してください。(20ページ しんの交換のしかた 参照)
感震部	●感震部にごみや煮こぼれ汁の付着や錆はありませんか。 [対震自動消火装置が正しく作動することを確認]	●ごみやほこりは、やわらかい布できれいにふき取ってください。 ●錆が多量に発生している場合は、販売店に修理依頼をしてください。

定期点検のおすすめ(2シーズンに1回)

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。2年に1回程度、シーズン終了後などに、お買い上げ店、または、修理資格者[(財)日本石油燃焼機器保守協会(TEL.03-3499-2928)でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など]のいる店などに点検依頼されることをおすすめします。

故障・異常の見分け方と処置方法
―修理を依頼される前に―

故障・異常箇所	原因 ＼ 現象	点火しない・しにくい	炎が大きくならない・消えてしまう	赤火や、すすが出て燃える	消火しない・しにくい	においがする	炎がかたよる	しんが下がらない	しん上下の操作が重い	火の回りが遅い	処置方法
しん	しんの出過ぎ。			○		○					しんを下げて、炎を調節する。
しん	しんの出が少ない。	○	○			○				○	新しいしんと交換する。
しん	しんに水を含んでいる。 油タンクに水が入っている。	○	○					○	○	○	油タンクの水を抜き、きれいな灯油ですすぎ洗いする。 新しいしんと交換する。
しん	しんにタールがついている。	○	○		○	○		○	○	○	しんの手入れをする。又は新しいしんと交換する。 油タンク内の灯油を正常な灯油に交換する。
燃焼筒	燃焼筒がしんの上にのっている。			○		○	○	○			点火してから必ず燃焼筒つまみを左右に2～3回動かす。
燃焼筒	燃焼筒の変形。			○		○	○				燃焼筒の下部がうまく揃っているかを確かめる。（揃いが悪い場合は販売店に連絡する。）
燃焼筒	しん調節器と燃焼筒との間にすき間がある。			○		○	○				しん調節器の上面にタールがついていない、又は燃焼筒下部に不揃いがないかを調べる。
燃料	灯油が変質している。 （汚れた油やポリ容器で1年間持ち越した油など）	○	○		○	○		○	○	○	正常な灯油に交換する。 新しいしんと交換する。
燃料	灯油が水やごみを含んでいる。	○	○					○	○	○	正常な灯油に交換する。 新しいしんと交換する。
置台	置台に、ごみ、ほこりがたまっている。			○							置台を掃除する。

• この表以外の不具合があるときは、お買い求めの販売店にご相談ください。

部品交換のしかた

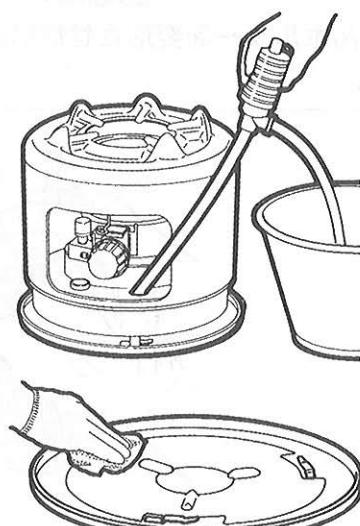
- 替えしん、燃焼筒などの交換部品が必要な場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
- 部品が販売店にない場合は、別紙の **お客様相談窓口一覧** までお問い合わせください。

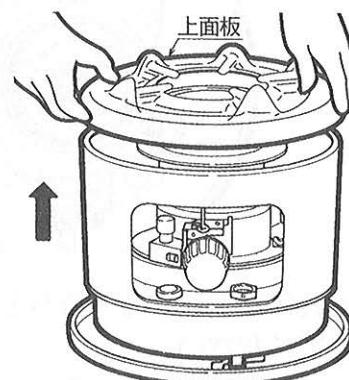
⚠注意	しんなどの交換部品は、必ずトヨストーブ純正部品(指定部品)を使用してください。 純正部品を使用しないと、こんろの性能を損なうばかりでなく、故障や予想しない事故が発生するおそれがあります。

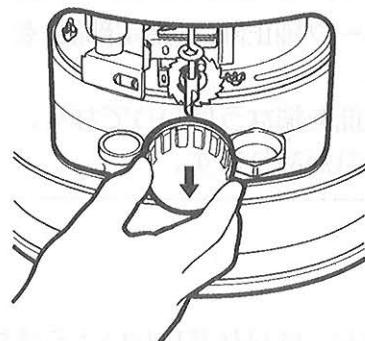
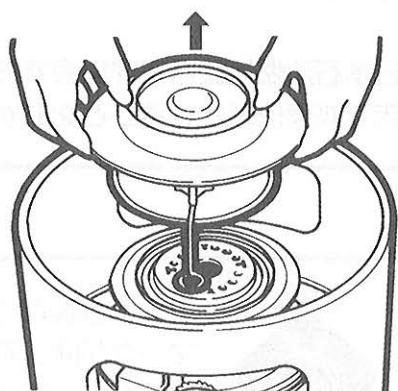
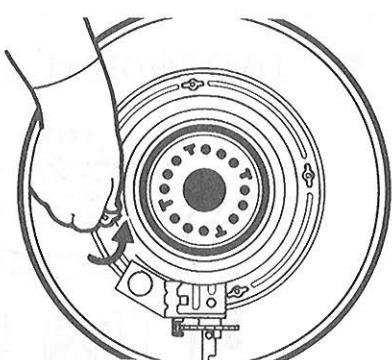
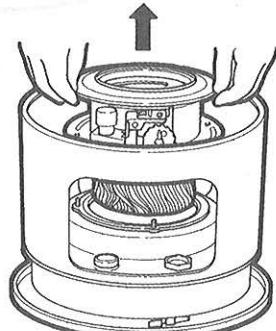
部品交換のときの注意

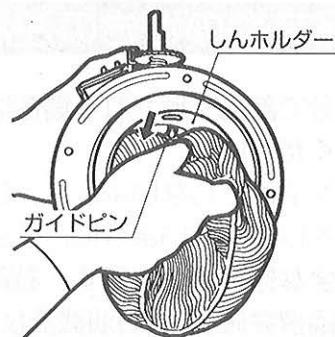
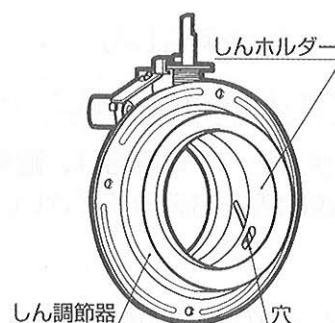
- **ご自分で部品交換される場合は、下記の項目を守り、やけど、けがなどしないよう注意しておこなってください。**
  ①手をやけどしないように、こんろは消火し、温度が充分に下がるまで待ってください。
  ②手をけがしないように、手袋をはめてください。
- **不完全な修理は危険です。お買い上げの販売店か、(財)日本石油燃焼機器保守協会でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)などのいる販売店で修理依頼されることをおすすめします。**

しんの交換のしかた

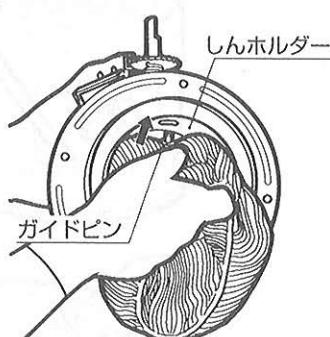
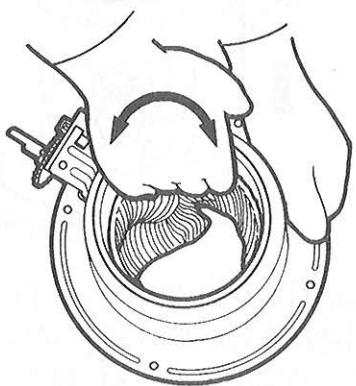
トヨストーブ純正適合しん

トヨ耐熱しん第24種	商品コード11014307

しんの交換方法・注意内容は、耐熱しんに添付されている取扱説明書をお読みください。

JIS適合検査合格品はこのマークが貼ってあります。マークの色彩は、白地に赤インクで表示されています。

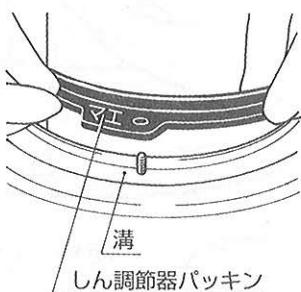
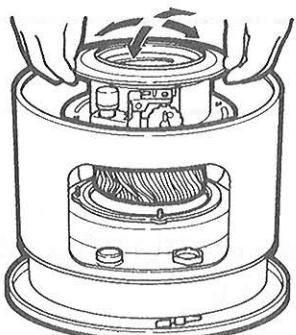
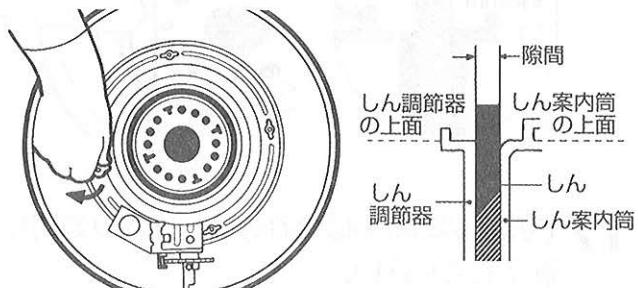
1 油タンクの給油口ふたをはずし、市販の給油ポンプで油タンク内の灯油を抜き取ってください。油タンク内の水やごみもきれいに抜き取ってください。
- **残った灯油は、布切れなどで吸い取ってください。**
- **置台の上のほこり、ごみを取り除いてください。**

2 上面板を取りはずしてください。

3 しん調節つまみを引き抜いてください。

4 燃焼筒を取り出してください。

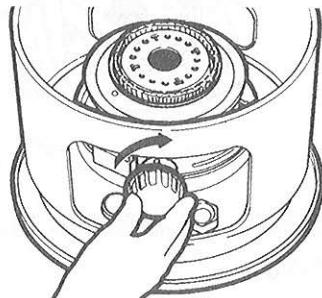
5 しん調節器の止めねじ4本をはずしてください。

6 しん調節器を上方へ持ち上げて、取りはずしてください。

7 古いしんを四つ折にするようにして、しんの3箇所のガイドピンをしん調節器からはずし、しんを下へ引き抜いてください。

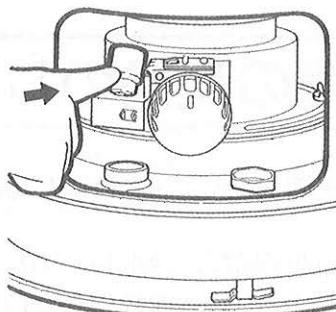
お願い

しんホルダーを変形させないようにしてください。

8 しん調節器内側のみぞの穴と、しんホルダーの穴を合わせてください。

9 新しいしんを軽く四つ折にして、しんホルダーの穴としん調節器のみぞの穴にしんのガイドピンを3箇所に差し込んでください。

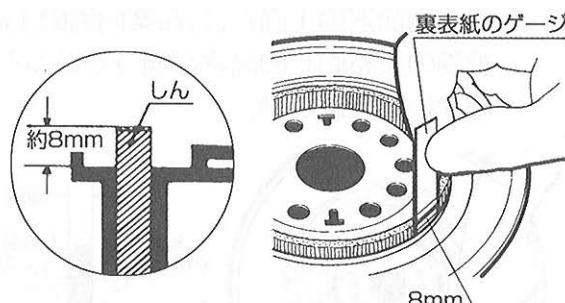
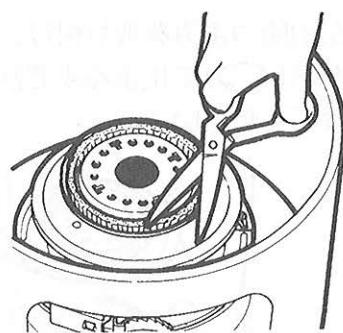
お願い

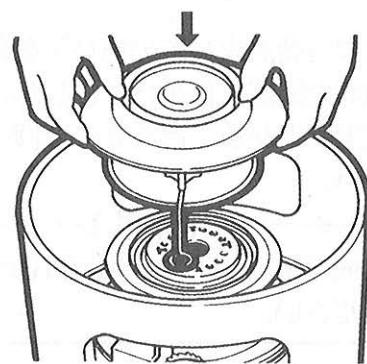
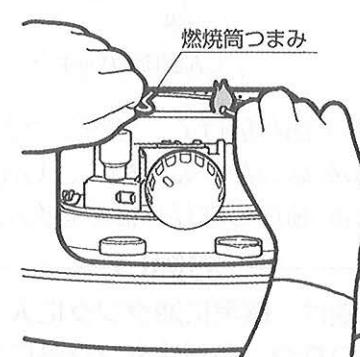
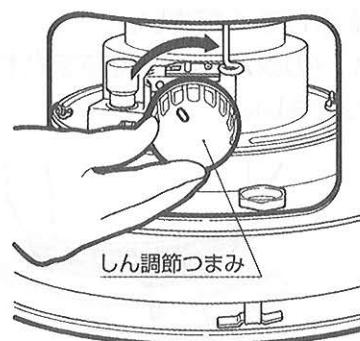
しんホルダーを変形させないようにしてください。

10 しんを、しん調節器の内側に指で押しつけながら、充分になつかせてください。
充分になつかせないと、対震自動消火装置を作動させたときに、しんが下がらないことがあります。

11 しん調節器パッキンが正しくセットされているか確認してください。
パッキンの表示（マエ）位置を合わせて取りつけてください。

12 しんの下部を広げて、油タンクとしん調節器にしんをなつかせるために、しん調節器を前後左右に動かしながらはめ込んでください。

お願い

しんの先端は、確実に油タンクに入っており、しんのほつれや、糸が油タンク外に出ないようにしてください。

13 しん案内筒としん調節器の隙間が全周揃っているところで、**5**項ではずしたしん調節器の止めねじ4本で均等に締めてください。
一箇所のみを締め付けるのではなく、均等に徐々に締めてください。
しん調節器の上面と、しん案内筒の上面（燃焼筒の乗る面）の高さが揃っていることを確かめてください。

14 しん調節つまみを取り付け、しん調節つまみを右（↻）に止まるまで回して、しんを上げてください。

15 対震自動消火装置の振り子を押して対震自動消火装置を作動させ、しんがスムースに確実に下がることを2～3回確認してください。

お願い

しんが確実に下がらない場合**10**項からやり直してください。

……しんの交換のしかた

16 しんをいっぱい上げたとき、しんの高さは約８㎜です。しんの高さが均一に揃っていることを確かめてください。
- 裏表紙のゲージを使用して、しんの高さを確認してください。

17 しん上端の糸のほつれ等は、はさみで切り揃えてください。

18 燃焼筒を、しん調節器の上に正しくのせてください。

19 上面板を本体の上に水平となるよう確実に取り付けてください。

20 新しい灯油を給油後15分以上待って、しんに灯油が充分に吸い上げられてから、点火して、各部がスムーズに動き、正常に燃焼することを確認してください。

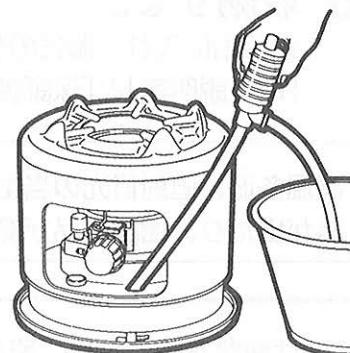
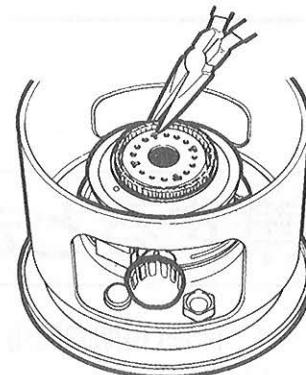
燃焼筒の交換のしかた

適合燃焼筒	商品コード:11042706

燃焼筒の構成部品が、変形していたり、燃焼筒の下部がうまく揃っていない場合は、お買い求めの販売店、又は別紙の **お客様相談窓口一覧** までお問い合わせください。

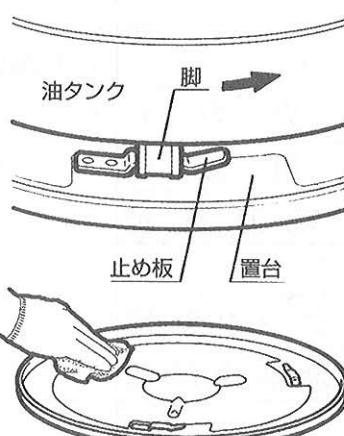
保管（長期間使用しない場合）

⚠注意

長期間使用しないとき又は保管するときは、必ず灯油を抜いてください。
傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。
火災のおそれがあります。

1 油タンク内の灯油を抜き取る。

①油タンクの給油口ふたをはずし、市販の給油ポンプの吸込側を油タンクに差し込んで、油タンク内の灯油を抜き取ってください。
②油タンクに水やごみが残ったまま保管すると、錆や油漏れの原因になります。
きれいな灯油ですすぎ洗いをしてください。

2 しんの手入れをする。（から焼きクリーニング）

- 20ページの しんの交換のしかた の1～4項を参照して上面板と燃焼筒を取りはずし、しんの先端が固くなっている時は、ラジオペンチなどで固い部分を軽くつぶしてからおこなってください。

①前項**1**の手順で油タンクの灯油を抜き取ってください。
②燃焼筒をしん調節器の上に正しくのせ、上面板を元通りに組み付けてください。
③通常の点火操作をして、正しく燃焼させてください。
④火力が小さくなったら、自然に消火するまで燃やしきってください。

お願い

- **しんの手入れは、風があたる場所ではおこなわないでください。**
- **しんの手入れ中はにおいがしますので、部屋の換気をおこなってください。**

- **しんの手入れをしても効果がない場合は、新しいしんに交換してください。**

3 置台を取りはずし掃除する。

油タンクを矢印の方向に回して置台を取りはずし、置台の上にたまったほこりや汚れを取り除いてください。

4 対震自動消火装置を作動させる。

対震自動消火装置を作動させ、しんを下げた状態にしてください。

5 点検、掃除をする。

①17ページの 点検・手入れのしかた の項目にしたがって、点検、手入れ、掃除をしてください。
②こんろの各部品は、よく掃除して、いたんでいるものは新しいものに交換してください。
③こんろの汚れは、ぬれた布でふいて落とし、乾いた布で水気を取り除いてください。

6 収納する。

包装箱に入れ、湿気の少ない場所に保管してください。
「取扱説明書」と「保証書」も忘れずに大切に保管してください。

お願い

高温多湿、直射日光の当たる場所には、保管しないでください。
錆が出たり、樹脂部品が変形する原因になります。

灯油は変質を防ぐため、翌シーズンに持ち越さない(使いきる)ようにしてください。

廃棄するとき

24ページ 保管(長期間使用しない場合) の**1**～**4**項を参照して、油タンク内の灯油を抜き取ってから廃棄してください。

仕様

項目	内容
型式の呼び	K-3E
種類	石油こんろ
	しん式・煮炊用・屋内用
点火方式	マッチ点火
使用燃料	灯油(JIS1号)
燃料消費量	0.209L/h
出力	2.15kW
油タンク容量	3.1L
燃焼継続時間	約15時間

項目			内容
外形寸法(置台を含む)		高さ	330mm
		幅	358mm
		奥行	358mm(置台を含む)
質量			約6kg
しん	種類		普通筒しん
			トヨ耐熱しん第24種
	呼び寸法	内径	105mm
		厚さ	3.2mm
		吸上量	200%
安全装置			対震自動消火装置(しん降下式)

保証について

- 添付しております保証書は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、お受け取りください。記載内容をご確認のうえ大切に保管してください。

★保証期間は、お買い上げの日より１年間です。

お願い

つぎのような原因による故障および事故につきましては、保証の対象となりませんのでご注意ください。

(１)変質灯油や不純灯油など、また灯油以外の燃料を使用したための故障や事故。
(２)ほこりや汚れなど、手入れのゆきとどかないためにおこった故障や事故。
(３)純正部品以外のものを使用したり、しんにタールが付着したり、水を吸ったための故障。
(４)消耗品(しん)の故障。
(５)この取扱説明書や、注意書、ラベル類による指示、危険・警告・注意・お願い事項が守られず、誤った使い方をされた場合の故障や事故。

- その他詳細の保証内容については、保証書の記載内容をご覧ください。

修理を依頼するとき

- 「故障・異常の見分け方と処置方法」(19ページ)に従って、お調べください。直らないときは、ご使用を中止し、必ずお買上げの販売店にご連絡ください。
- ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
  ①品名…石油こんろ
  ②型式の呼び…K－3E
  ③お買上げ年月日
  ④故障の状況(できるだけ具体的に)
  ⑤おなまえ，おところ，電話番号
- 修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定に従って、販売店が修理させていただきます。
- 保証期間が過ぎていても、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。
- 修理料金は、技術料，部品代，出張料などで構成されています。

修理・引越しなどで、こんろを運搬される場合は、油タンクの灯油を必ず抜いてください。
運搬の途中に灯油がこぼれ、周囲を汚すおそれがあります。

補修用性能部品について

- 石油こんろの補修用性能部品の保有期間は製造打切り後６年です。
- 補修用性能部品とは、製品の機能を維持するために必要な部品です。

故障・修理の際の連絡先

アフターサービスについてわからない場合は、お買い求めの販売店、または、もよりの お客様相談窓口一覧 (別紙参照)までお問い合わせください。

お手入れ・保管

K-3E　取扱説明書

お客様へ…おぼえのために記入されると便利です。

型　　式	K-3E	お買上げ年月日	年　　月　　日
お買上げ店名	（電話番号）（　　　）　－		

株式会社トヨトミ

本　社　名古屋市瑞穂区桃園町５番１７号
〒467-0855　TEL 〈052〉822-1144
FAX 〈052〉822-2742

R100 古紙パルプ配合率100%再生紙を使用
株式会社トヨトミは快適環境の一環としてこの取扱説明書は再生紙を使用しています。

W-⑧